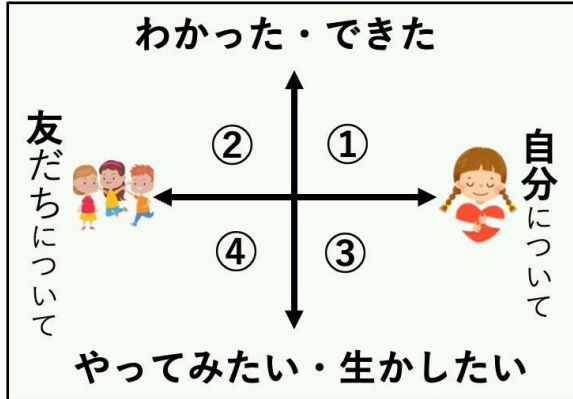


学習者主体の授業づくりに向けた「振り返り」の事例

学校名	南さつま市立坊津学園	児童生徒数	114人
-----	------------	-------	------

振り返りをしている子供の様子や、振り返りの視点、振り返りの記述等

◆ 振り返りの視点



条件	かき方のれい
①	・はじめは〇〇だったけど～についてわかった ・～が楽しかった。・前の勉強と～が似ていると思った
②	・〇〇さんが～と考えていることがわかった ・〇〇さんが～と考えていて自分は～だと思った
③	・次のじゅぎょうでは～をしてみたい ・今日のじゅぎょうを～にいかしたい
④	・次のじゅぎょうではともだちと～しながら 〇〇してみたい

横軸を「自分・友達」
縦軸を「今まで・これから」
2本の軸から振り返りを書かせます。

◆ 振り返りの例（2人）

振り返り②
・私は、「円の面積」がダメダメだったので、「体積」の方がもっとがんばろうと思い、たくさん問題を解きました。そして、たまたま分かってきました。もちろん、計算ミスする時は多かったです。後からは正解できるようになりました。自分だけの分け方や書き方があるけど、友達も考えて、自分が簡単だと思える時がありました。これからは、この単元の反省（よく計算ミス）を生かして、しっかり見直しをやっていこうと思います。

①～④を意識した算数「立体の体積」の振り返り

振り返り①
私は今日の学習で今までより「やさしいところ」は「おれい言ってくれ」と「おれい」を発表する人に言えるようになりました。
今までは発表する人に「やさしいところ」を聞くことしかなくて、少し他の友達にまわしてしまったり、あとで発表する人に聞くことが多かったです。
でも、発表する人に「やさしいところ」を聞いてもらって嬉しかったです。
これからは、しっかり友達をたよって、もう少しできるようになります。

学習内容ではなく授業態度を振り返る子ども

取組についての概要（成果）

- 授業の終わりに“まとめ”として振り返りを書かせることをスタートにした。
- 単元テストの用紙の裏に、振り返りを書かせている。「自分が、何ができるようになったのか」を、単元終了時に改めて振り返らせることによって、単元を通して、学習を自分ごととして考えられるようになるとともに、次の単元への意欲付けになっている。
- 視点は与えるが、量や内容について強制はせず、ある程度自由に書かせている。
- 4つの視点を与え、視点に対応した書き方の例を明示することによって、子どもたちは振り返りを書くことへの抵抗感が減り、以前よりも文章量が多くなっている。
- 振り返りを確認し、補充や発展問題など、次時への授業に繋げるようにしている。